



福島藝術計画

FUKUSHIMA GEIJUTSU KEIKAKU



ART SUPPORT TOHOKU - TOKYO

2013

秋祭り。
会場になっていた。
ギントを用意して待っていてくれたりした。

ス。

台、こひる。

日出会った人たちと盆踊りを踊った。対話劇をつくった。
平田村、鏡石町、須賀川市、相馬市、喜多方市、三島町、西会津町…
てと出会って、いろんな体験をした。
歴史や文化に触れてみたいと思った。いろんなものを作りたくなった。誰かと話しをしたくなかった。
いい福島を旅するために。

旅した一年だった。場所へつれて行ってくれた。温泉、田んぼ、学校、街の中。アートと一緒にいつもみんなと一緒に楽しめてくれたし、あとおどろくよ
二〇
ットや、仮設の美術館。そして、アートや、町の町、編み組細工の里、山か
二二
あった。
大きなキャンバスにめいっぱい絵を描
葉があった。たとえが、アールブリュッ
市や南相馬市、川内村、白河市、
易場で、いろんな人と出会い、いろんな
いいたらその町のことをもっと知りたくな
アートはいつもきっと手をさだしてく
たらしい春を持つ。またアートといっし

アートと旅する
○月×日
ふりかえれば、アートは、ぼくをい
海のちかくや、山
たまには雨や雪の日
いつだってぼくを思
はじめて見たものか
たとえば、JAXAの
はじめて知ったこ
たとえば、こけ
はじめてやったこ
たとえば、と
はじめて聞いた
いわき市や
福島のいろ
そして、
みんなと
ぼく



福島藝術計画

FUKUSHIMA GEIJUTSU KEIKAKU



ART SUPPORT TOHOKU-TOKYO
2013

つなげるプログラム つたえるプログラム 発信するプログラム

福島藝術計画 × Art Support Tohoku - Tokyo (東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)は、福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施する事業です。文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという観点から復旧・復興を支援します。

<http://f-geijyutsukeikaku.info>

- P4 START 福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo発信フォーラム
福島をつなぐ・つたえるフォーラム(創造されるコミュニティ)
- P6 11 プロジェクトFUKUSHIMA!美術部
- P8 02 DAYLILY ART CIRCUS (デイリリー・アート・サーカス)
- P12 04 週末アートスクール・イン・つくば
～感じて・見て・なりきりレオナルド・ダ・ヴィンチ！？～
- P14 06 筑波大学CRプロジェクト in 土湯 ～ぼくらのラビュタ作戦～
- P16 03 仮設美術館をつくろう 小名浜仮設美術館「地引網と浮き球」
- P18 09 週末アートスクール
土あそび どろんこアート ～喜多方の土でおもいきり遊ぼう！～
- P20 09 週末アートスクール
草木をまとう 草木を飾る
- P22 09 週末アートスクール
僕らの“あいす”世界に送る烽火(のろし)からのメッセージ
- P24 07 学校連携共同ワークショップ「スタンプで創ろう！大きな絵」
- P26 10 近所にできる小さな美術館をみんなではじめるフォーラム
はじめる美術館～十八間蔵から～
- P28 05 猪苗代の「こびる」TARO さんにおしゃれて！
猪苗代の「おやつ」TARO さんにおしゃれて！
- P30 08 対話劇を作ろう ～ 平田オリザプロジェクト ～
- P32 01 日比野克彦 つなげるつながるプロジェクト
6年間の思い出ベスト10！～わたしたちのハートなマークのピューイングをつくって後輩たちに伝えよう！～
- P34 FINAL 福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo発展フォーラム
福島をつなぐ・つたえるいわきセッション
- P36 voice ～ プログラムに参加したみなさまの感想より ～
voice ～ プログラムの企画・実施側のみなさまの感想より ～
- P40 プロジェクトデータ・あとがき



つなげるプログラム つたえるプログラム 発信するプログラム



参加アーティスト

平田オリザ

1962年東京都生まれ。劇作家・演出家。こまばアゴラ劇場芸術監督、劇団「青年団」主宰。大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授、東京藝術大学・社会連携センター客員教授、四国学院大学客員教授、学長特別補佐。その戯曲はフランスを中心に世界各国語に翻訳・出版されている。2002年度以降中学校の国語教科書で、2011年以降は小学校の国語教科書にも平田のワークショップの方法論に基づいた教材が採用され、多くの子どもたちが教室で演劇を創作する体験を行っている。

和合亮一

1968年福島県生まれ。詩人。福島県の高校教諭の傍ら詩作活動を行う。震災以降、地震・津波・原子力発電所事故の三重苦に見舞われた福島から、Twitterにて「詩の裸」と題した連作を発表し続ける。昨年開催された週末アートスクールにおいて「詩人・和合亮一さんとつくる 海の詩・いわきの詩」をテーマに講師を務める。

モテレーター

森司

1960年愛知県生まれ。東京アートポイント計画ディレクター/公益財團法人東京都歴史文化財团 東京文化発信プロジェクト室地域文化交流推進担当課長。NPO等と協働したアートプロジェクトの企画運営、人材育成プログラムを手がける。2012年7月より「Art Support Tohoku-Tokyo(東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)」のディレクターも務める。



(第1部 講演会)

- | | | |
|-------|---------------------------------|--------------------------|
| 13:35 | 平田オリザ | テーマ「文化の自己決定能力」 |
| 14:05 | 和合亮一 | テーマ「未来芸能をめぐって~いま考えていること」 |
| 14:45 | 福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo | プログラム紹介 |

(第2部 ディスカッション)

- | | | |
|-------|------------------------|------------------|
| 14:55 | 平田オリザ × 和合亮一／モテレーター 森司 | テーマ「被災地とアートの関わり」 |
|-------|------------------------|------------------|



**参加アーティスト****大友良英**

ギタリスト、作曲家、プロデューサー。音楽と美術の領域にまたがる新たな作品を次々に発表。せんだいメディアパーク、水戸芸術館で個展。各地で「子どもオーケストラ」の原型となる「ダブルオーケストラ」を開催。2011年5月、震災を受け遠藤ミチロウ、和合亮一等とプロジェクトFUKUSHIMA!を立ち上げる。2012年、プロジェクトFUKUSHIMA!の活動で芸術選奨受賞。2012年のプロジェクトFUKUSHIMA!は、福島藝術計畫×Art Support Tohoku-Tokyoとの連携事業としても展開。

中崎透、アサノコウタ、他多数

- 15:00 大友良英&「あまちゃん」スペシャルビッグバンド
- 15:20 ムーン♀ママ(ビカ☆+坂本弘道)
- 15:20 福高JAZZ研 feat.大森真&大友良英
- 16:00 珍しいキノコ舞踊団
- 16:25 向井秀徳
- 16:45 浜田真理子
- 17:05 テニスコツ
- 17:30 坂本龍一+勝井祐二+ユザーン+大友良英
盆踊り

(遠藤ミチロウ、長見順、岡地曙裕、
オーケストラFUKUSHIMA!「あまちゃん」スペシャルビッグバンド、
珍しいキノコ舞踊団、ほか多数)

**盆納涼
踊り！**

ちようちゃんの明かりを照らされるやぐら。
祭りは最高潮を迎えるステージの人たちと
それを見に来た人たちとがいつしょになって
オリジナルの盆踊り
ええじゃないか音頭を踊りました。



参加アーティスト

高橋士郎
牛島達治
野田裕示
吉澤美香
仲田智
太田三郎
タムラサトル
木村崇人
開発好明
滝沢達史
門脇篤
市川瑞希
村上タカシ

トラックから、荷物箱が出てきて、その中からアート作品が拿出へん。バットというテーマも大変なことにならなかった。指揮を指したり、ちゃんと音楽を聴いたり、



Daylily Art Circus

デイリリー・アート・サーカスは、
トラックに作品を詰込み西日本から東へ移動する展覧会です。
被災地域の小中学校や避難所などの
会場で楽しんで頂きたいと考えています。

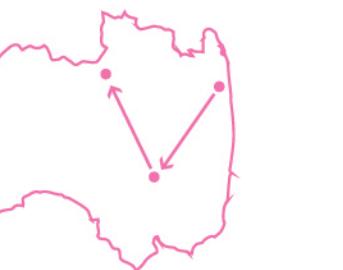
被災地域・日本全体が再生していくためには、西日本、関東を中心とした日本全域での経済活動・文化活動の活性化が不可欠だと考えます。この活動によって、各会場の方には点として展覧会を経験するのではなく、線としての日本の繋ぎ、気持ちの繋ぎ、町の繋ぎを感じて欲しいと思っています。

デイリリーは、
花言葉で
『再生』という
意味を持ちます。



2013年9月20日(金)
社会福祉法人福島会よつば保育園
2013年9月21日(土)
南相馬市立中央図書館
2013年9月22日(日)
南相馬市高見公園
2013年9月23日(月)
南相馬市高見公園
2013年9月24日(火)
児童施設「なかよし館」
2013年9月25日(水)
かねうち保育園

2013年9月25日(水)
児童施設「なかよし館」
2013年9月26日(木)
かねうち保育園
2013年9月28日(土)
土湯温泉芸術祭「土湯アラドアートアニュアル2013」





つなげるプログラム

週末アートスクール・イン・つくば

～感じて・見て・なりきりレオナルド・ダ・ヴィンチ！？～

週末アートスクール・イン・つくばは、筑波大学の創造的復興プロジェクトと連携し、県内在住の小中学生を対象とした1泊2日のアートスクールとして開催しました。当日は多くの絵画作品に触れ、デッサンを楽しみ、宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センターにて、サイエンスアートに触れました。筑波大学ならではの現代アートと宇宙のサイエンスアートに触れ、たくさんの技術に秀でたレオナルド・ダ・ヴィンチになりました。

参加アーティスト

六

三

THE ECONOMY

10

14



雨でキャンプファイヤーはできなかったけれど、ラジオ体操に合わせて踊った
「ダ・ヴィンチ体操」が面白かったです。デッサンをしたり、スカイスクリーを飛ばしたり、ダ・ヴィ
ンチのマネをしてさかさまの文字を書いてたりして、最後にJAXAを見学しました。貸し切りバスに乗っ
てみんなといっしょにご飯をたべて、二段ベッドに泊まって…宿泊訓練みたいで楽しかったです。



<1日目>

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 9:00 | JRいわき駅前出発 |
| 11:30 | 筑波大学芸術学系棟到着 |
| 12:30 | 大石膏室入り |
| 12:50 | 『大石膏室アッサン教室 静物画を描く』 |
| 16:00 | 『スカイスクリューワークショップ』 |
| 18:00 | 夕食 |
| 19:00 | 『キャンプファイヤー・ライブパフォーマンス ダヴィンチ体操!』 |
| 20:00 | 筑波大学体育センター宿泊施設泊 |

<2日目>

- | | |
|-------|--------------------|
| 8:00 | 朝食 |
| 9:00 | 『鏡文字ワークショップとゲーム』 |
| 10:30 | 『宇宙スライドショー』 |
| 11:00 | 昼食 |
| 13:00 | 『ロケット体験』 |
| 14:30 | 『レオナルド・ダ・ヴィンチに大変身』 |
| 17:30 | JRいわき駅前到着 |



つなげるプログラム

筑波大学CRプロジェクト in 土湯～ぼくらのラピュタ作戦～

筑波大学の創造的復興プロジェクトと連携し、土湯温泉芸術祭「土湯アラフドアートアニュアル2013」の会期中に、福島市内の小学生たちと、ミニチュアの島の上に自由に建物などをのせ、風船を付けて空に浮かべて“夢見るまち”をつくるワークショップを行いました。島が浮かび上がると、子どもたちから歓声が起きました。ワークショップ終了後は、芸術祭会場になった「しゃくなげ荘」にて会期1週間の展覧会を開催し、自分のまちのことや、未来の福島を考える場としました。



いろいろな形をした“島”から好きな形の島を選んで、その島に家や学校やお店をつくりました。
あと山と川もつくりました。島に住む人もつくりました。
自分で住みたいまちになったら、風船を付けて空に浮かべて“夢見るまち”ができあがりました。できあがったまちは比べてみるとみんなせんせん違う形をしていて、おもしろかったです。





【参加アーティスト】

アサノコウタ(BHIS)

1983年福島県福島市生まれ。福島学院大学非常勤講師。古民家鑑定士。建築家。BHIS(ビューティーハッピーアイランドスタジオ)主宰。福島市で「うつくしま、ふくしま」をモットーに地域環境デザインを試みる建築以下の設計事務所「BHIS」を主宰する。建築設計の領域に留まらず、グラフィックデザインからプロダクトデザインやコミュニティデザインまで、福島県という地域の中で横断的な取り組みを行う。プロジェクトFUKUSHIMA!では、美術家中崎透と「福島大風呂敷」(2011)、「はたと想う。」(2012)のディレクションを担当する。

untangle.(からみほぐし研究所)

線を引く人・即興線描家。いわき市小名浜生まれ。小名浜本町通りにあるUDOK.を拠点に、「からみほぐし造形」をコンセプトとしたドローイングアートを研究・制作。県内外での展示やライブドローイングなどを行う。
<http://karahogu.wix.com/untangle>



みんなでいろんな色のストローと風船とワイヤーを使って“地引網”と“浮き球”的仮設美術館をつくりました。“地引網”も“浮き球”も船で漁に出るときに使うものなので、海の近くの美術館にいったりだと思いました。“地引網”と“浮き球”でできた美術館は、中が通れるので、みんなでぐり抜けて遊びました。

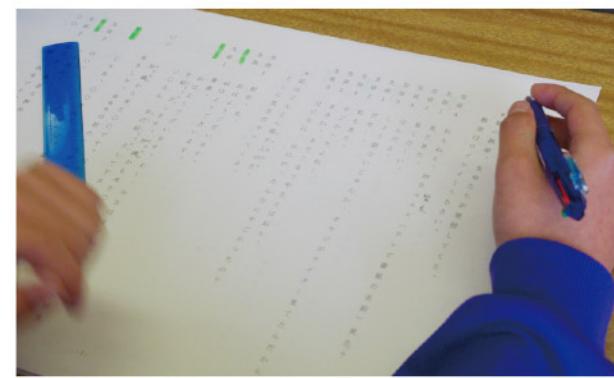




参加アーティスト
平田オリザ
※プロフィールはP05参照



平田オリザさんから。
お互いの考えをすり合わせていく「対話の発想」を学びました。
できあがっている台本を、みんなで話し合いながら
すこしづつ自分たちの言葉に変えていって、
自分たちだけのオリジナルの台本ができあがります。
“対話”することで見えてきた“違い”が、
思いもよらぬものだったりして面白かったです。





参加アーティスト

日比野克彦

東京藝術大学教授。日本サッカー協会理事。様々な地域の人々と共同制作を行いながら、受取り手の感受する力に焦点を当てたアートプロジェクトを展開し、社会で芸術が機能する仕組みを創出する。震災後は東日本大震災復興支援活動「HEART MARK VIEWING」を立ち上げ、作ることをきっかけに、人と人を繋ぎ、想いを届ける。福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo2012では、フラッグシップ・アーティストとして、二つの地域やグループをつなぐ「マッチフラッグプロジェクト」を実施。



2月・3月。

ハートマークは「愛」や「こころ」「きもち」をイメージする形です。2月・3月と県内2つの小学校を会場に、卒業する6年生といっしょに、小学校生活の思い出を振り返って、楽しかった気持ちをマークとしてデザインしました。それぞれの班で話し合ったベスト10の思い出の中から1つを選んで、選んだ思い出をマークにしました。グループによってちょっとずつ違うベスト10がおもしろく、日比野さんも子どもたちのベスト10を見ながら、どんな行事なのか尋ねていました。



できあがった作品は、それぞれの班のものをきちんと縫い合わせて、1つの大きな作品にし、6年生を送る会や卒業式での学年の子たちにも見せてもらいました。先輩たちの楽しい思い出を後輩たちも感じてくれたかな。

絵具で色を塗るのとはちがって、布で切って貼っていくので、コツが必要です。



3月8日

今年度のおわりにこの1年間を振り返って、

これからにつなげていくためのフォーラムが行われました。

会場となったいわき市文化会館アリオス

藤浩志さん、日比野克彦さん、平田オリザさんの3名のお話を

ききました。3名のクロストークでは、アートプロジェクトがもたらす

効果や心の復興の必要性、今後の福島が抱える問題に必要な

アートプロジェクトについてなど、今だからこそ行きなう意味のある

アートプロジェクトだと思いました。

フォーラムだと思いました。

2014年3月8日(木)
13:00 ~ 17:20
いわき芸術文化交流館アリオス



発信するプログラム

福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo発展フォーラム

福島をつなぐ・つたえるいわきセッション

「福島をつなぐ・つたえる」をテーマに、文化と芸術による復興支援プログラムを行ってきた福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo。2013年度の締めくくりに1年間を振り返り未来につなげていくためのフォーラムをいわき市で開催しました。第1部では、今年度実施したプログラムの報告。つづく第2部では、いわき市で同様に文化芸術活動を行っている4つの団体より、活動事例の紹介や今後の展開などについてお話ししていただきました。そして第3部では、プログラムを担っていただいたアーティストの日比野克彦さん、劇作家の平田オリザさん、いわき市での文化芸術活動に実績のある美術作家の藤浩志さんのトークの後、「復興に向ける福島のアート」をテーマに、アートプロジェクトがもたらす効果、心の復興の必要性などについてディスカッションを行い、来場者と考えを深めていきました。



参加アーティスト

日比野克彦

※プロフィールはP33参照

藤浩志

1960年鹿児島県生まれ。藤浩志企画制作室代表、美術作家。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、パブリックアーティギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経て藤浩志企画制作室設立。「ヤセ犬の散歩」「お米のかエル物語」「Vinyl Plastics Connection」「Kaekko」「藤島八十郎をつくる」等、各地で対話と地域実験の場を作る美術のデモンストレーションを実践。

森司

※プロフィールはP05参照

平田オリザ

※プロフィールはP05参照



モテレーター

13:30 開演・はじめに

今年度のプログラムを振り返る

(報告:島崎圭介(事務局)まとめ:川延安直)

14:10 地域におけるアート活動～いわき市の事例紹介～

15:20 藤浩志 トーク

15:40 日比野克彦 トーク

16:00 平田オリザ トーク

16:30 今年度のプログラムを振り返る

藤浩志 × 日比野克彦 × 平田オリザ クロストーク

17:30 閉会

UDOK.
小名浜本町通りにあるオルタナティブスペース。「晴耕雨読」に由来。
ARTMEETING 田人の森に遊ぶ 2013
自然豊かな田人の町を広域的に活用した回遊型の美術展覧会を開催している。

Alios plants! こどもプロジェクトあそび工房
月に一度、いわきアリスの共有スペースで子供も大人も遊べる場を提供。
万本桜プロジェクト
葵国強が支援するプロジェクト。平の山林に後世に残す桜の木を植えている。

voice ~ プログラムに参加したみなさまの感想より ~

どのようなアートを活用した事業があつたら参加してみたいと思いますか?

・各年代の興味あるアートを集めて何かまとまったことがで
きないか?

・写真、文学、特に短詩型の分野。

・参加型の祭り、地域芸能。

・AACパフォーマンスフェスティバル。

・書道、写真、建築(とくに建具)神社・仏閣など、自然(草、木、花
など)

・文化行政、文化施設、教育機関当該団体のみならず、さまざま
な階層の市民参加を得てとりくまれる事業であれば。

・大人がこれから始められるアートWS

・手作り感覚のもの。おしつけではなく、こちらの意向や気持
ちをくんだ企画をしてほしい。

・地域の文化を深く学べるようなもの。

・新しい若者(有名なものだけでなく)文化を知れる事業。

アートを活用した事業を福島県内で行うことによって、期待
することはなんですか?

・みんなの心を豊かにし、ひいては魅力ある県にしていく。

・人材育成

・新しいコミュニティーの創生

・一過性のイベントで終わってしまうものではなく、長く続い
ていくものとして根付いてくれること。福島の人々が、未来に
夢を描いて生き生きとこれからも生きていけるようになるこ
と。

・たて割り地方自治体の壁をとかすこと。

・東京資本の力に依存しすぎず、それを巻き込むだけの場の創
造。

・15万人の避難されている方に蓄積されているわだかまり
を解こう。

・心の再生、元気、人と人の繋がりを強くすること。

・自分のルーツを知る県民が増え、郷土愛が生まれ、発信する
ことの大切さに気づく⇒日本一県民力の強い県となり、福島に
人がたくさん訪れる⇒笑顔が増える。

・日常(未来)を奪った国や東電の実態・責任の所在を明らかに
し、被災県民が主権者としていかに日本の青い空を取り戻す
か。

・笑顔が生まれること。

・各人が地域の良いものに改めて気づくこと。

・刺激がほしい。

・私たち自身が生きる力を強められるようになること。こうし

た本質的なことからそれないようになること。

・地域のソフトやネットワークを強く結びつけるもの(単に一
回限りのハレ的な発信でなく)

・活気と元気

感想・ご意見をお聞かせ下さい。

色々なことを考える機会になりました。今後もこのような機
会がありましたら、参加したいと思います。

福島に生まれたことが、選択肢が多いことが、そう思える環境
に居ることが幸せだと思える機会でした。

地元の方々の縁の下の方々が見え、かつ言葉の意味をたずね
る、体験する企画を今後に期待したい。東北、そして東京、日本
ももっともっと学びたいもの。青い空を取り戻し、幸福度を高め
あえる日本人に!

私は滋賀に38年住んでおり、旅行をかねておとといより仙台
へ宿泊しておりました。そして昨日は実際に震災についてそ
の場へ行きたいという気持ちがあり、女川と石巻へいきました。
福島駅にて横尾さんの看板を見て美術館に来て、そこで講
演ボスターを見て入っていいのかな…とおもいつつ座ってお
りました。よばれた気がします。やはり自分の足でその地に立

つ意味を今すごく感じました。和合さんの詩に出会い、平田さ

んのことばがきてよかったです。ありがとうございました。

福島・東北の現状を地元の人が自分の声でよびかけていくこ
とで初めて巻き込むだけの場は形成されていくと思いま
した。このような機会をありがとうございました。

地域の伝統や祭りも芸術という考え方方に共感しました。

毎回参加者が少ないのが残念です。福島の中にいる人たち(特
に若い学生)が地域を考え、アート(文化)に向き合う可能性を

つなげてほしいです。

震災後の文化活動は一部の人のなぐさめ。アートやったところ
で何になるんだろうと思っていました。今回の講演で、アーティ
ストに対する考え方方が変わり、重要性がわかりました。もっとた
くさんの人が参加できればいいのに。プロジェクトの名前は
カタカナが少ないほうがいい。主旨がわかりにくいくらい。

少し不謹慎かもしれませんが、わくわくしました。

現場に即したエピソードが伺えて大変参考になりました。東
京にいてはわからないことがありますね。

プログラムは大変良いと思いますが、もっともっと導入にエ

とても良い内容であった。参加してよかったです。参加者
が少なかったのが残念。多くの人が知らなかつたのでは?た
くさんの人に聞いてもらいたい内容だった。これからもがん
ばってください。

ンターテイメント性を用意し、子供の興味をしっかりとつか
むような構成もやれるのでは、と思います。

このようなイベントに参加させてもらえて、とても貴重な体
験をしました。今回ありがとうございます。

1日半でこんなに中身のつまつた体験をさせてもらえて本当に
ありがとうございます!

とても良い体験をさせてもらえてよかったです。このツ
アーがあまり知られていないようのがもったいなかつたで
す。本当にたのしかったです。また参加したいです。

楽しかったです。ありがとうございます。

たのしかったからまたこのきかいがあればさんかしたい。

子供たちが楽しく過ごせたようなのでとてもよかったです。
お疲れさまでした。ありがとうございます。

とても親子でいい経験ができました。2日間とても楽しかった
です。

voice ~ プログラムの企画・実施側のみなさまの感想より ~

福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyoの取組みについて思ったことを教えて下さい。

現地の小中学校への広報活動、参加者への迅速な対応、スクールの積極的な参加を頂きまして、心より感謝しております。無事に何事もなく成功でき、参加者、スタッフ共々、笑顔で終わらせることができましたのも福島藝術計画、ワンダーグランドの方々のご協力あってのことだと嬉しく思いました。

現地の担当者をご紹介いただきまして、スムーズにプロジェクトを進めることができました。

被災県の中で、これから多くの取り組みが必要とされる中で、芸術というアプローチで何が出来るのか。今後も必要な活動だと思います。

初年度のアートスクールのイメージが強烈で、ちょっとピンと来なかったのが実情です。

福島県の問題は、浜通り・中通り・会津と地域によって異なるなか、県内を網羅するように(横断するように)、様々な芸術的な取り組みを計画されていることが素晴らしいと感じています。複数の活動がその地域の問題を解決する糸口を提示していたり、その地域に根差した活動であるからこそ、新しい未来(文化)をつくることができるのだと思います。また、政治的な問題も多く含むこのたびの東日本大震災と原発事故に対して、芸術・アートという側面からアプローチすることで、政治ではなく文化をつくろうとされているのだと認識しています。その地域に実際に住まう人々がかたちづくるものこそ政治ではなく文化であり、本活動がその一助となっていると思います。

自分達が福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyoを通じて、福島県の復興や地域おこしの活動に関わることは嬉しい、そして有り難く思います。

実施後の参加者の反応や感想等はどうでしたか？

「子どもたちにとっては印象に残る2日間だった。保護者の方にとっても、一人一人それぞれに思い出ができた。筑波大学で体験できたことは本当にプラスになった。」など多くの感想をもらい、子どもたちの将来に向けたプラスのイメージを持ちもらうことができました。

「貴重な体験をさせて頂いてありがとうございました。」と言って下さった保護者の方が多かったが、私たちスタッフにとっても、学ぶことがたくさんあり、今後の活動の糧を得ることができました。(仮設住宅について...)

実施後の参加者のアンケートは好評で、継続的な実施を希望されていました。

一度訪れた方々の滞在時間が長く、各開催地である程度親しきれています。

美術館をみんなでつくる、という行為は子どもから大人まで、全員が夢中で取り組んでくれていました。立派な美術館ではないかもしれません、みんなができることで、みんなでつくることで、完成後も愛着を持って接してもらえることができました。“仮設”だからこそ取り壊しもあり、それを惜しんでくださる地元の方ががいてくれたことがとても嬉しいです。この活動を通して、「仮設」と名のつくものは、その存在がなくなるまでが使命であり、なくならない「仮設」はあってはならないとも考えました。(仮設住宅について...)

今年度については、変身願望のためか、花と一緒にきれいな写真を撮ってもらったことが受けたようです。特に親御さんが喜びました。

烽火のワークショップを行なった会場のある集落は、お年寄りしかいない限界集落で、ワークショップ後、集落の人たちが、この場所にこんなに人が集ったのは初めて見た、と言っていました。集落の人もみんないっしょに参加でき、元気になるワークショップでした。

次年度の展開や取組みを教えて下さい。

週末アートスクール自体の実施は未定であります、別の取り組みで子どもたちの可能性を引き出せるようなワークショップを開いていきたいと考えています。

3年間5回実施したことを踏まえ、次年度は新たな取り組みが始まります。レジデンス的に作家の長期滞在、いくつかの地域で線的、面的に取り組んでいくプログラムを作成しているところです。3年間を目標に。

今年度は喜多方市美術館での長期開催とその後岩手などを巡回予定。

「仮設」で「小規模」だからこそ、繰り返し行えるという魅力がございます。「小名浜仮設美術館」が建設されるのは未定ですが、「本町通り芸術祭」は身の丈に合ったかたちで、また開催されることが決定しているようです。身の丈に合ったことをすることが、持続性を持たせるうえで重要であると思います。

僕もまた、身の丈に合ったものをみんなでつくりたいと思います。

本事業への意見、ご要望をお聞かせ下さい。

今後も連携を深めて頂き、現地情報の紹介を隔りたいと思います。

現地での小中学校との連携や市民の方々へのワークショップの告知などに更に取り組んでいただけますと幸いです。

芸術活動が根ざすには長期的な視野での活動が必要になってくると思いますので、長期的な援助活動を行なって頂けたらと 思います。

アートスクール1泊2日の限界・物理的・日程のため、アーティストと地元住民の交流が十分ではなく、今後、次年度事業で3年間の体験を活かし、地域が変わっていく仕組みを作りたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い致します！

project data

プログラム数:12プログラム(全35回)

参加人数:7194名

□ 福島藝術計畫xArt Support Tohoku-Tokyo發信フォーラム
福島をつなぐ・つなえるフォーラム(創造されるコミュニティ)
[参加アーティスト] 平田オリザ、和合亮一 モデレーター:森司
[実施日時] 2013年6月15日(土)13:00~16:00
[会 場] 福島県立美術館 講堂
[参加人数] 90名
[主 催] 福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、
特定非営利活動法人Wunder ground

□ プロジェクトFUKUSHIMA!美術部
[参加アーティスト] 大友良英 中崎透 アサノコウタ 他
[実施日時] 2013年8月15日(土)
[会 場] 福島市「街なか広場」
[参加人数] 5,000名
[主 催] プロジェクトFUKUSHIMA! 美術部、福島県、東京都、
東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)
NPO法人Wunder ground
[プロデューサー] 大友良英(音楽家)
[ディレクター] 中崎透(美術家)、アサノコウタ(建築家)
[コーディネート] 坂口千秋

□ DAYLILY ART CIRCUS (デイリリー・アート・サーカス)
[参加アーティスト] 高橋士郎、牛島達治、野田裕示、吉澤美香、仲田智、太田三郎、タムラサトル、
木村崇人、間堀好明、瀧沢遼史、門脇篤、市川瑞希、村上タカシ
[会 場] 社会福祉法人福暉会よづ保育園
[実施日時] 2013年9月20日(金)
[参加人数] 140名

[会 場] 南相馬市立中央図書館
[実施日時] 2013年9月21日(土)
[参加人数] 70名

[会 場] 南相馬市高見公園
[実施日時] 2013年9月22日(金)
[参加人数] 80名
[会 場] 南相馬市高見公園
[実施日時] 2013年9月23日(月)
[参加人数] 100名

[会 場] 児童施設「なかよし館」
[実施日時] 2013年9月24日(火)
[参加人数] 13名
[会 場] かわうち保育園
[実施日時] 2013年9月25日(水)
[参加人数] 13名

[会 場] 児童施設「なかよし館」
[実施日時] 2013年9月25日(水)
[参加人数] 14名
[会 場] かわうち保育園
[実施日時] 2013年9月26日(木)
[参加人数] 14名

[会 場] 土湯温泉芸術祭「土湯アラフドアートアニュアル2013」
[実施日時] 2013年9月28日(土)
[参加人数] 70名

□ 週末アートスクール・イン・つくば ~感じて・見て・なりきりレオナルド・ダ・ヴィンチ! ?~
[参加アーティスト] 太田圭、林則人丸、THEパーティー、河部英美、達坂卓郎
[実施日時] 2013年7月27日(土)~7月28日(日)
[会 場] 筑波大学、宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センター
[参加人数] 30名
[主 催] 筑波大学創造的復興プロジェクト、福島県、東京都、
東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、
特定非営利活動法人Wunder ground

[会 場] 南相馬市立中央図書館
[実施日時] 2013年9月21日(土)
[参加人数] 70名

[会 場] 南相馬市高見公園
[実施日時] 2013年9月22日(金)
[参加人数] 80名
[会 場] 南相馬市高見公園
[実施日時] 2013年9月23日(月)
[参加人数] 100名

□ 仮設美術館をつくろう 小名浜仮設美術館「地引網と浮き球」
[参加アーティスト] アサノコウタ(BHIS)、untangle.
[実施日時] 2013年9月28日(土)~ 9月29日(日)
[会 場] いわき市 小名浜本町通り 銀座商店街
[参加人数] 50名
[主 催] 小名浜本町通り芸術祭実行委員会、福島県、東京都、
東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、
特定非営利活動法人Wunder ground
[協 力] オルタナティブスペースUDOK.

□ 週末アートスクール 土あそび どろんこアート ~ 喜多方の土でおもいきり遊ぼう! ~
[講 師] 佐藤香
[実施日時] 2013年8月17日(土)~18日(日)
[会 場] 喜多方市 蘭底
[参加人数] 32名
[主 催] 福島県、東京都、
東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、
特定非営利活動法人Wunder ground
[協 力] 特定非営利活動法人まちづくり喜多方、特定非営利活動法人NPO西会津ローカルフレンズ

□ 週末アートスクール・草木をまとう 草木を飾る
[講 師] 片桐功教
[実施日時] 2013年9月14日(土)~15日(日)
[会 場] 三島町交流センターやまびこ
[参加人数] 32名
[主 催] 福島県、東京都、
東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、
特定非営利活動法人Wunder ground
[協 力] 三島町教育委員会 生涯学習課、三島町公民館、特定非営利活動法人わくわく奥会津.COM
特定非営利活動法人NPO西会津ローカルフレンズ

□ 週末アートスクール 便らの“あいす”世界に送る烽火(のろし)からのメッセージ
[講 師] 青山ひろゆき
[実施日時] 2013年9月14日(土)、15日(日)
[会 場] 西会津町奥川(旧奥川中学校)
[参加人数] 50名
[主 催] 福島県、東京都、
東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、
特定非営利活動法人Wunder ground
[協 力] 株式会社西会津振興公社、定非営利活動法人NPO西会津ローカルフレンズ

□ 週末アートスクール ふどうの木鏡石栄光幼稚園(鏡石町)
[実施日時] 2013年11月5日(火)
[会 場] ふどうの木鏡石栄光幼稚園(鏡石町)
[参加人数] 年長 30名

□ 週末アートスクール ふどうの木鏡石栄光幼稚園(鏡石町)
[実施日時] 2013年11月8日(金)
[会 場] 福島市立森合小学校(福島市)
[参加人数] 300名

□ 週末アートスクール 須賀川市立稻田小学校(須賀川市)
[実施日時] 2013年11月21日(木)
[会 場] 须賀川市立稻田小学校(須賀川市)
[参加人数] 4年生 41名

□ 週末アートスクール 须賀川市立稻田小学校(須賀川市)
[実施日時] 2013年11月22日(金)
[会 場] 郡山市立第二中学校(郡山市)
[参加人数] 支援学級 7名

□ 週末アートスクール 原釜幼稚園(相馬市)
[実施日時] 2013年12月13日(金)
[会 場] 原釜幼稚園(相馬市)
[参加人数] 50名

□ 学校連携共同ワークショップ「スタンプで創ろう!大きな絵」
[参加アーティスト] 青山ひろゆき
[主 催] 福島県立美術館、
東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、
特定非営利活動法人Wunder ground
[実施日時] 2013年10月17日(木)
[会 場] 白河市立第四小学校(白河市)
[参加人数] 4年生 35名

□ 週末アートスクール 土あそび どろんこアート ~ 喜多方の土でおもいきり遊ぼう! ~
[実施日時] 2013年10月21日(月)
[会 場] 郡山市立多田野小学校(郡山市)
[参加人数] 1~6年生 143名

□ 週末アートスクール こども園ばだい樹西幼稚園(白河市)
[実施日時] 2013年10月25日(金)
[会 場] こども園ばだい樹西幼稚園(白河市)
[参加人数] 年長・年中 100名

□ 週末アートスクール 福島県立小野高等学校平田校(平田村)
[実施日時] 2013年10月27日(日)
[会 場] 福島県立小野高等学校平田校(平田村)
[参加人数] 1~3年 49名

□ 週末アートスクール 草木をまとう 草木を飾る
[実施日時] 2013年11月5日(火)
[会 場] ふどうの木鏡石栄光幼稚園(鏡石町)
[参加人数] 年長 30名

□ 週末アートスクール 福島市立森合小学校(福島市)
[実施日時] 2013年11月8日(金)
[会 場] 福島市立森合小学校(福島市)
[参加人数] 300名

□ 週末アートスクール 须賀川市立稻田小学校(須賀川市)
[実施日時] 2013年11月21日(木)
[会 場] 须賀川市立稻田小学校(須賀川市)
[参加人数] 4年生 41名

□ 週末アートスクール 须賀川市立稻田小学校(須賀川市)
[実施日時] 2013年11月22日(金)
[会 場] 郡山市立第二中学校(郡山市)
[参加人数] 支援学級 7名

□ 週末アートスクール 原釜幼稚園(相馬市)
[実施日時] 2013年12月13日(金)
[会 場] 原釜幼稚園(相馬市)
[参加人数] 50名

□ 近所にできる小さな美術館をみんなではじめるフォーラム はじめる美術館～十八間蔵から～
[講 師] 伊藤達矢、山崎亮、森司、南真宏、保坂健二朗、川延安直
[実施日時] 2013年10月20日(日)
[会 場] しおや蔵2階
[参加人数] 39名
[主 催] 社会福祉法人安積愛育園はじめの美術館準備室、福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、特定非営利法人 Wunder ground
[協 力] 日本財団、株式会社studio-L、あさかホスピタルグループ
[後 援] 猪苗代町、猪苗代町商工会、猪苗代町観光協会、株式会社まちづくり猪苗代、猪苗代体験交流協会、福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局

□ 猪苗代の「こびる」TAROさんにおしえて！猪苗代のおやつTAROさんにおしえて！

[参加アーティスト] EAT&ART TARO
[実施日時] 2014年1月20日(月)／2月24日(月)
[会 場] 猪苗代町 しおや蔵2階
[参加人数] 30名／9名

□ 対話劇を作ろう～平田オリザプロジェクト～
[参加アーティスト] 平田オリザ
[実施日時] 2014年2月 6日(木)13:35～15:25
2014年2月13日(木)13:35～15:25
2014年2月27日(木)13:35～15:25
[会 場] 南相馬市立原町第二中学校
[参加人数] 99名
[主 催] 福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、特定非営利法人 Wunder ground
[協 力] 南相馬市市民活動サポートセンター

□ 日比野克彦 つなげるつながるプロジェクト
[参加アーティスト] 日比野克彦
[実施日時] 2014年2月3日(月)
[会 場] 福島市立野田小学校
[参加人数] 131名
[実施日時] 2014年3月14日(金)
[会 場] 郡市立安積第一小学校
[参加人数] 121名
[主 催] 福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、特定非営利法人 Wunder ground

□ 福島藝術計画xArt Support Tohoku-Tokyo発展フォーラム
福島をつなぐ・つたえるいわきセッション
[参加アーティスト] 日比野克彦、平田オリザ、藤浩志 (モダレーター:森司)
[プレゼンター] UDOK.
ARTMEETING 田人の森に遊ぶ 2013
Alios plants! こどもプロジェクトあそび工房
万本桜プロジェクト
[実施日時] 平成26年3月8日(木)13:00～17:20
[会 場] いわき芸術文化交流館アリオス
[参加人数] 87名
[主 催] 福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、特定非営利法人 Wunder ground

あとがき

福島藝術計画xArt Support Tohoku-Tokyoは、震災後、福島県と東京都、そして福島県内の各地域のNPOなどの団体が協働し、行っている事業です。文化を通して、福島の良さを再発見してもらいたい”“純粋に創造的な活動を楽しんでもらいたい”そして”また元気を取り戻してもらいたい”——そのような思いで実施しています。

今年度は、それぞれの地域の歴史や文化をプログラムの背景に織り交ぜ、体感していただくことで「福島はこんなところだったんだ」という実感と、福島で暮らすことの誇りを取り戻してもらえるような内容となることを目指しました。そして、県外からの参加者には、福島がどんなところなのか知っていただく機会にもなったと思っています。

この事業に参加いただく方の中には、もう一つ別な関わり方をしていただいている方々がいます。それは、動かす側、つまり主催者側として参加される方です。

浜通り地方であればいわき、あるいは南相馬。中通り地方の福島、会津地方の会津若松、喜多方…それぞれの地域のNPOなどの団体が、それぞれの地域で行うプログラムを運営してくださっています。このことによって、動かす側自体のモチベーションは上昇します。あるいは福島県内にある、これまであまりつながりのなかった団体が、プログラムを実施する中で、連携や協働をしていく。これもそれぞれの地域でプログラムを行う上での大きな目的の一つと考えています。

プログラムを通して、地域で、新しい芽が育ち、それぞれの地域ごと、色とりどりの花が咲く。これからも、アートと共に旅をすることで、その情景が見られることを楽しみにしています。

福島藝術計画xArt Support Tohoku-Tokyo 2013

**福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo
REPORT 2013**

[発行年月日] 2014年3月

[発 行] 福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、
特定非営利活動法人Wunder ground

[制 作] 特定非営利活動法人Wunder ground
[デザイン] 藤城光

[冊子及び事業への問合せ先]
特定非営利活動法人Wunder ground (福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo事務局)
 TEL 070-5622-4982
 Email tas.fukushima@gmail.com
 URL <http://f-geijyutsukeikaku.info/>

[事業名] 福島県 「ふくしま心の復興アートプロジェクト」(平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ)
東京都 「東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業(福島)」

[主 催] 福島県、東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、特定非営利活動法人Wunder ground



平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ